

令和6年度 歴史・文化探訪の会（報告）

去る11月10日（日）第37回探訪会「七州城巡検と豊田市博物館、美術館見学」を実施しましたので報告します。

午前10時、名鉄豊田市駅に12名が集合、徒歩で豊田市博物館に向かった。15分ほどで博物館に到着、副館長さんの紹介とご挨拶の後、玄関前にて記念撮影し入館した。

副館長さんの案内で始めに常設展を、吹き抜けの広い館内1階部分をぐるりと一周する形で順に、1「とよたモノ語り」、2「とよた記憶トラベル」、3「とよたたんきゅうラボ」、4「とよたストーリー」、5「とよたパノラマスロープ」と見学し、豊田市について新たな知見を得、理解を深めて、エントランスに戻った。以下に概略を記します。

1「とよたモノ語り」のコーナーでは、矢作川河床埋没林のムクノキや秋葉遺跡の竪穴建物跡の石囲炉（ガラス越しに床下に展示）を見学した。

2「とよた記憶トラベル」のコーナーでは、照明を落とした室内で展示物（出土した縄文土器や銅鐸、岩石見本など）を見学し、豊田市の歴史をたどった。

(1)「旧石器・縄文時代」では、豊田市最古の縄文土器（酒呑ジュリナ遺跡で出土した微隆起線文土器）を見学。

(2)「弥生・古墳時代」(略) (3)「古代・中世」(略)

(4)「近世」、江戸時代の豊田市域には、挙母藩や伊保藩、渡邊半蔵家が治めていた寺部の尾張藩領、猿投神社などの寺社領、松平太郎左衛門家などの旗本領があった。中馬街道などの陸上交通と、矢作川を中心とした水上交通の発展をもとに、物流と商業が発達した。1749(寛延2)年に挙母藩主となった内藤家は、1756(宝暦6)年から現在の元城町付近で築城に着手するが、度重なる矢作川の水害の影響で計画を断念、幻となったこの城は「桜城」と呼ばれた。1785(天明5)年には樹木台へ城を移すことが目指され、完成したのが「七州城」で、「七州」は三河、信濃、尾張、美濃、伊勢、伊賀、近江の7つのことで、その山々を望めたことによる。大手門近くに藩校「崇化館」も設けられた。

(5)「近代」、明治維新に成り、豊田市域の産業は、農業や林業を中心とし、農家の副業としての養蚕業が盛んになり、明治末期には全国有数の繭の産地として知られた。大正期には大規模な製糸工場の加茂蚕糸も創業し、製糸業、ガラ紡（綿紡績業）の繊維産業なども興った。

第二次世界大戦前、世界恐慌の影響で市域の養蚕・製糸業が衰退し、代わりに豊田自動織機製作所から挙母町へ自動車工場用地あっせんの申し入れがあり、論地ヶ原にトヨタ自動車工業(株)挙母工場が建設され、自動車のまちとして歩み始めた。

(6)「現代」、1959(昭和34)年には、トヨタ自動車工業(株)を中心とした企業都市として発展していくという思いから、豊田市へと市名を変更した。2005(平成17)年に、豊田市は藤岡町小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町と合併し、愛知県では、最も面積の大きい自治体となった。1971(昭和46)年には多目的ダム（洪水調整、工業・農業用水、水道用水、発電など）として矢作ダムが完成。その湖底には、旭町、稲武町、串原村、上矢作村の4町村を含む全179戸が沈んでいる。

3「とよたたんきゅうラボ」のコーナーでは、豊田市の全域を模したジオラマを基に、(1)ベース（とよたの自然や景観）、(2)シーン（ベースに刻まれた昔から今までの人々の営みと記憶）、(3)とよたの岩石、(4)トピック展示を説明を受けながら見学した。

(1)「ベース（とよたの自然や景観）」では、①ダムに沈んだ村（旭地区）、②土砂崩れ、③果樹園、④湿地、⑤田んぼ、⑥茶畑、⑦ため池群を見学。

(2)「シーン（ベースに刻まれた昔から今までの人々の営みと記憶）」では、①百年先の森づくり、②山のくらし、炭焼き、③枝うち、間伐で森づくり、④越前国からやってきた漆かき職人、⑤木材を運ぶ筏流し、⑥矢作川の観光ヤナ、⑦農閑期の副業、和紙づくり、⑧地下資源を生かした磁器の生産、⑨信州まで続く塩の道、足助直し、⑩手呂の団地工事で見つかった銅鐸、⑪草薙隊（特攻隊）が飛び立った伊保原飛行場、⑫縄文時代のくらし、⑬旧明治用水頭首工と船通し閘門、⑭

町有飛行機「拳母号」と衣ヶ原飛行場、⑮川底に眠る縄文の森などを見学。

- (3) 「とよたの岩石」では、豊田市の多くを形づくる岩石についてパネルの説明等を見学。主に深成岩で、約 8200 万年前にできたと推定され、長石や石英が多く白っぽい色をしている。このため、昔から「豊田の川や道は白い」といわれている。豊田では、珪砂（石英を主体とする砂）が豊富にあり、それを原料とするガラス産業も盛んである。街を走る自動車の約 7 割は豊田市産のものである等。
- (4) 「トピック展示」、ここでは実際に市域で見つかった動物たちの剥製の展示を見学した。
- 4 「とよたストーリー」のコーナーでは、身近な存在である昆虫と岩石を対象に、採集、標本化したものの紹介を見学した。
- 5 「とよたパノラマスロープ」では、スロープをめぐるながら、常設展を振り返った。

続いて企画展（開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」）を見学した。全国各地から出土した多数の縄文土器（火焰型土器をはじめ、ユニークな縄文土器）を、地域による違いと共通点を注意しながら見学した。現在の研究では、縄文人は広範囲に交易を展開し、ヒト・モノが日本列島全体を行き来していたことが分かってきていると言う。

博物館の見学を終わり、隣の昼食会場の美術館レストランへ徒歩移動、約 50 分昼食休憩を取った。昼食後美術館の常設展示を約 1 時間見学し、14:30 頃探訪会を終了した。豊田市駅を目指し徒歩移動中、七州城跡の復元した隅櫓も見学した。

